

令和7年度 八王子市立由木西小学校 学校経営計画

八王子市立由木西小学校 校長 植杉 義久

1 はじめに

本校は昨年度創立152周年を迎えた。これまでの歴史を大切にしながら、今の時代に合った由木西小だからこそできる教育を下記の教育目標の元、本年度も展開していく。

教育目標

「心ゆたかに たくましい子」の育成方針

・よく考え自ら学ぶ子（知） ・最後までやりとげる子（体） ・なかよく助け合う子（徳）

学校での集団生活を通して、児童一人ひとりに相手を思いやる心や周囲と協力する大切さを実感させ、未来をたくましく生きていく力を育成していく。

2 目指す学校像

「みんなの”好き”がある学校 ～人・場所・時間～」

- (1) 学びや他者（人・地域）との関りに喜びをもたらす学校
- (2) 児童一人ひとりに寄り添い、主体性と可能性を伸ばせる学校
- (3) 保護者・地域とともに歩む学校

3 目指す児童像

「心ゆたかに たくましい子」の育成方針 ○「知・体・徳」のバランスの取れた児童

- ・よく考え自ら学ぶ子（知）・・・主体的に学びへ向かえる児童
- ・最後までやりとげる子（体）・・・日常生活においてチャレンジを繰り返し、努力できる児童
- ・なかよく助け合う子（徳）・・・他者との関りに喜びを感じられる児童

4 目指す教師像

学校作りはチームで行ってこそ実現できる。チーム由木西の教職員として次の7点を心がけて、教育活動を行っていく。

- (1) 教育公務員として教育の諸法規、学習指導要領、都や市教育委員会の法規、法令等を踏まえる。
- (2) 児童の安全と安心を第一に考えた言動（言葉遣い等）を行う。
- (3) 教育の専門家としてのプロ意識をもち、学校教育、学校運営への参画、専門性向上に努める。
- (4) 服務事故を起こさない、起こさせない。
- (5) 家庭、地域と連携していく姿勢を常にもち、丁寧に実践していく。
- (6) 由木西小の自然、歴史、地域を誇りに思い、愛する心をもつ。
- (7) 児童一人ひとりを愛し、創意ある教育をめざす。

5 学校経営の基本方針（中期的目標）と方策

教育目標達成のために、を学校経営の基本方針（中期的目標）として掲げ、以下のような方策を実施する。

- (1) 児童の実態や学校環境を生かした学習活動の創造
- (2) 児童が心理的安全性を感じる環境づくり
- (3) 地域と持続可能な連携をした学校づくり
- (4) 組織的な学校経営と職務の適切な執行

6 目指す学校像に向けた今年度の取組目標と具体的な方策

◎スローガン「あいさつ アタック あとしまつ」

「あいさつ」を通して人とのコミュニケーションを円滑にとれるようにする。

「アタック」チャレンジという意味。何事もまずはやってみるという姿勢を大切にする。

「あとしまつ」片付けや振り返りを確実にを行い、目標に対するフィードバックとする。

(1) 児童が学びへ意欲をもてる取組

ア 「分かった」「できた」を実感できる取組

- (ア) 1年生から6年生までが年2、3回程度、前学年の国語と算数の基礎学力の定着度を測る「ゆぎにしっ子ミニマム」を実施し、「はちおうじっ子ミニマム」の効果を高める。
- (イ) 学期に2回程度月曜日6校時に「ぐんぐんタイム」を実施し、児童自らが設定した学習目標と内容に取り組み自己調整力を養う。

イ 他者との関りを大切にする授業づくり

- (ア) 各教科、専科等全ての学習の中で目標達成の手立てとして話し合い活動を奨励し、論理的に考える良さを実感させる。
- (イ) 1人1台の学習用端末を活用した、学びの共有や学習のまとめの発表などを日常的に行えるようにする。

ウ 朝学習の取り組みの充実

- (ア) 火曜日は読書、水曜日は学習用端末を活用したタイピング練習やドリルパーク、金曜日は言葉遊びに関する繰り返し学習といった内容を、児童の実態に合わせ実施する。

エ 「学校林」を活用した自然観察・体験活動の授業の充実

- (ア) 学校林活用プロジェクトを発足し、プロジェクトリーダーを中心として現行の「学校林の観察」「たけのこ堀」「門松づくり」「かたくりの森の観察」以外の活用方法を「体験」「継続」をキーワードにしながら検討し、より児童が意欲的に取り組む内容にしていく。
- (イ) 学習効果を高めるため、学校林を活用した「由木西レンジャー」を実施する場合は、内容によって月曜日5校時を60分授業の「由木西レンジャー・ジャンボ」とする。

オ 学校環境を生かした自然観察・体験活動の授業の充実

- (ア) たてわり班で行う「由木西レンジャー」で「農園・花壇整備」や「さつまいも栽培」、「落ち葉集めて腐葉土づくり」といった活動を行う。内容によって60分授業の「由木西レンジャー・ジャンボ」、15分授業の「由木西レンジャー・ミニ」と弾力的に展開し、学習効果を高めていく。
- (イ) 5年生の米作り、4年生の麦栽培、1・2年生の杏・梅・栗の収穫、柿やキウイ、ブルーベリーやゆず等、伝統に行っている食育活動の継続と新しい取組の検討をするとともに、場合によって給食や地域との連携を図る。また、使用しなくなった学校プールを活用した学習活動を模索する。

カ 1年を通して、児童の図工作品が校舎を飾る取組の継続

- (ア) 校内ギャラリー等で子ども達の図工作品を鑑賞する活動を通して、豊かな感性を育み、お互いの良さを認め合おうとする心情を育てると共に、心温まる雰囲気あふれる校内環

境にしていく。

キ 読書活動の推進

(ア) 視野を広げ、語彙力を増やし、想像力を伸ばすため、地域の方の読み聞かせや図書委員会との連携を図りながら読書活動を推進する。

ク 特別活動をきっかけとした主体性の育成と活躍の場の設定

(ア) 教育活動を支える委員会活動は、持続可能な活動にするため、4年生からの参加とし、常時活動や計画的・臨時活動を通して主体性を養う。

(2) 安心安全を感じる環境づくり

ア 児童一人ひとりを見守る校内体制

(ア) 毎週火曜日の生活指導朝会や毎週水曜日に開催される「いじめ対策委員会」、年2回行う児童理解の会で情報を共有し、組織的な対応を行う。

(イ) ふれあいアンケートやQ-Uの分析や活用、「子ども見守りシート」を通して常に家庭からの情報も共有できるようにする。

(ウ) 教員が学校サポーターや学年補佐と連携を図り、児童の実態に即した声掛けや、指導を行う。

(エ) 休み時間は、教員が学校サポーターや学年補佐と連携を図りながら校庭、校内に分かれ児童の様子を見守るようにする。

(オ) スクールカウンセラーによる全員面接を年2回実施し、児童の実態把握に努め、迅速な対応に生かす。

(カ) 不登校児童や気持ちを整えたい児童用の教室として「ほっとルーム」を活用し、より一人ひとりの児童の状況に寄り添える校内体制を構築し、支援していく。

(キ) 不登校児童については、スクールソーシャルワーカーと連携を図りながら、場合によってはVLPの活用を模索する。

イ 豊かな心の醸成

(ア) 特別の教科道徳の時間やいのちの日の講話等を通して日頃から人権尊重の意識を高める指導を行う。

(イ) 異学年で構成したたてわり班で遊びや「由木西レンジャー」、児童集会を行うことで、下級生は上級生に憧れを、上級生は下級生を良い方へ導く自覚をもてるようにする。

(ウ) サッカーの取組や休み時間の外遊びの奨励など、異学年同士のつながりや仲間意識を高め、思いやりの気持ちを育めるようにする。

(エ) 学芸会やミニコンサートを行い、集団で取り組む良さや協力して取り組む喜びを実感するとともに、図画工作の作品の展示や音楽での学びを発表する機会の設定し、自己有用感を育む。

ウ 保護者や関係機関と連携した特別支援教育の充実

(ア) 月1回のスクールソーシャルワーカーを交えた特別支援校内委員会や年2回の児童理解の会を通し、児童や家庭の状況、特別支援教室での様子やスクールカウンセラーからの報告等の情報を共有し、今後の指導に生かしていく。

(イ) 特別支援教室「おおり教室」について、間違った認識をもたないよう年度初めに保護者や児童に理解教育を実施する。保護者には年度当初の保護者会時に理解啓発ビデオを上映し、児童には1年生を対象に映像資料を使った説明を4月に、体験授業を7月に実施する。

- (ウ) 月1回程度だけのこの会を開き、保護者の子育ての相談や本校の教育活動に関する疑問質問に答えることで特別支援教育の理解を図る。

エ 安全教育の充実

- (ア) 日常の安全指導の充実を図ると共に、総合的な学習の時間における地域安全マップ作りや避難訓練、セーフティ教室や薬物乱用防止教室、自転車安全運転教室等において、自分の身は自分で守る力を育てる。
- (イ) 避難訓練の内容を火災や地震、火災からの地震や不審者対応、発生時刻を午前午後や休み時間にずらす、煙、起震車、消火器の体験等、より実際の災害に近い設定で訓練する。
- (ウ) 110番の家を訪問する機会を作り、実際に駆け込んだり、家の人の話を伺ったりして緊急時に行動へ移せる訓練をする。

(3) 保護者、地域との連携

ア 学校運営協議会と連携した教育活動の構築

- (ア) 由木西レンジャーでの門松づくりにおける、竹の切り出しや週休日での防災訓練の計画、校庭の環境整備を行う。
- (イ) ガーデニングラバーズを中心として校地内の自然環境整備と保全、柿、ゆずといった植物の活用方法の検討、児童との交流等で愛校心や環境に関する意識を高めていく。

イ 教育資源を活用した教育活動の充実

- (ア) 畑見学や地層見学、国際理解学習や戦跡見学など地域の特色を生かした学習を進め、郷土に対する理解と愛着を深める。

ウ 保幼小連携、鑑水小・鑑水中との連携を推進

- (ア) 小中一貫グループ校である鑑水小学校、鑑水中学校と連携し、プレ中学生プロジェクトの取組や部活動体験、合唱祭りハーサル見学や授業参観等、児童・生徒の情報共有等の取組を推進する。
- (イ) 鑑水小学校とは小小連携の取組として、学校林観察やクラブ交流、かるた交流などを実施し、連携の強化に努める。
- (ウ) 年2回の保幼小連携の日を活用しながら、近隣幼稚園や保育園と連携し、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続できるよう、情報の共有化を図る。
- (エ) 保護者が教育活動を支援する登校の見守りや読み聞かせ、図書室整備や災害避難用備蓄品の管理、親睦行事などに対し可能な限り協力をする。
- (オ) 教職員として地域行事に可能な限り参加し、保護者・地域の方と共に語り、共に汗を流しあえる関係を構築する。
- (カ) ホームページ上での学校・学年だよりや児童の様子を紹介することで、本校の教育活動への周知と理解を図る。

(4) 健全で向上心をもった組織の構築

ア 服務事故防止の徹底

- (ア) 教職員に対して、体罰や不適切な指導、交通事故、個人情報漏洩等の服務事故を防止するために、学期ごとの研修や職員会議、管理職の定例連絡会後において周知を行うと共に、報告・連絡・相談の徹底を行う。

イ 校内研究主題「自ら学びに向かう児童の育成」を柱にした授業づくり

- (ア) 年2回の研究授業と協議会を通し、組織的に児童が自ら学ぶ姿勢の向上を図る。

(イ) 特定の教科を中心とした仮説検証型の研究を推進し、研究授業での成果を他教科へ実践し、効果を高める。

ウ 教員・職員の専門性を生かした指導形態の工夫

(ア) 教員の専門性を生かした交換授業などを行い、授業のおもしろさや楽しさを実感させる。